



岡本 俊一

OKAMOTO Shun-ichi

日本通運執行役員
関西アカウントセールス部担当関西企業の元気を
日本・世界に——
物流ソリューションで貢献

関西は明治以降、ものづくりの盛んな産業都市として発展しました。空港など国際的なゲートウェイの整備も進んだ現在では、グローバル市場で調達や販売を行う製造業、インバウンド需要を取り込む観光業や飲食業など、多様な産業が集積し、成長を遂げています。弊社では、関西で頑張る企業の成長を3つの面から支援させていただいています。

一つは「グローバルなサプライチェーンの実現」です。地政学的なリスクを回避し、弊社の在庫コントロール技術で高品質な日本の商材を偏在させることなく、販売機会の拡大やグローバル在庫の適正化を支援しています。次に、「End to Endソリューションの提供」です。例えばお客さまが生産量を増強したい時、工場保管の部材を弊社保管に変更し、工場面積を増やさずに製造ラインを増設するなど、調達・生産・販売までのプロセスをワンストップで支援することで、お客さまの投資効率の向上に貢献しています。三つめは「サステナブルなロジスティクスの推進」です。2026年度から順次始まる温室効果ガス排出量の報告義務化に向け、鉄道や船舶での輸送への切り替えや、積載効率の向上による輸送回数の削減などを提案しています。こうした取り組みで大切なのは「アカウントマネジメント」、つまりお客さまの事情を理解し、最適解を共に考えることです。関西企業がさらに元気になるよう、今後も尽力していきます。

2025年大阪・関西万博では、弊社も経験豊富な人材を2025年日本国際博覧会協会に派遣し、運営に協力しました。開幕前には大屋根リング建設のための資材管理や運搬、組み立て支援で工期短縮に貢献。開幕後は環境配慮型の2tトラックで会場の内外を往来して、3カ所に点在する倉庫管理や物販の運搬のほか、会場内のごみ収集・分別など効率的な静脈物流も担いました。弊社の

ロジスティクスの知見と技術でお役に立てたと同時に、試行錯誤しながら工事や運営に携わり、それをやり遂げたことは、弊社の今後の自信やレガシーになると考えています。

関経連では国際委員会と国土・広域基盤委員会の副委員長を務めています。今回の万博では、AIやロボットをはじめ、多くの新たなビジネスの芽が大きく膨らみました。関西にはこれらの新技術を生かす産業基盤があり、年月をかけて築いてきた各国とのビジネス交流もあります。こうした強みをうまく活用し、育った新技術や新たなビジネスを将来、グローバルに展開できるよう、引き続きアジアを中心とした人的ネットワークや各国経済団体との連携を深めることが必要です。弊社もこれまで培ったネットワークを使って支援に取り組む所存です。

万博で実証走行したEVバスの成果をEVトラックにも展開するべく、充電インフラの整備促進にも取り組み始めています。そのほか物流業界を取り巻く喫緊の課題としては、関西国際空港や港湾のゲートウェイの輻輳問題、さらには越境ECの急増などがあり、物理・法規の両面からDXも活用した整備をはかりたいと考えています。

私は兵庫県尼崎市の出身ですが、東京や金沢などに通算十数年勤務しました。外から関西を見て強く感じたのは、「関西が元気にならなければ、日本は元気にならない」ということです。関西は、“やってみる”という気風が企業にもしみ込んでいます。そこから発信される元気は全国に波及します。それが日本や世界に対する、関西の一番の貢献だと信じています。来年は「ワールドマスターズゲームズ2027関西」が開催されますし、2030年秋にはIR(統合型リゾート)が開業する予定です。関西の新たな挑戦に今後も大いに期待しています。(談)